RADAR DETECTOR AND
ADVANCED WARNING SYSTEM
FOR MOTORCYCLE

VZ-5000

カーロケ付オートバイ専用レーダー探知機

取扱説明書

KS1217060

適　合	12V車　全車種に取付可能

この度は「VZ-5000」をお買い上げ頂きありがとうございます。
本取扱説明書におきましては、安全にお使いいただくため、下記のように表示を定めております。
内容をよく理解されてから製品をご利用ください。また、この取扱説明書は常にお手元に保管くださいますようお願い申し上げます。

⚠警告 ⚠注意	この表示の内容を守らないと、事故やケガまたは車両に損害を与える事があります。

TANAX

① 目次

〈1〉 目次
〈2〉 仕様
〈3〉 特長
〈4〉 部品構成と各部の名称
〈5〉 配線方法
　●バッテリーへの直接配線
　●車両側の配線への途中結線
〈6〉 取付方法
　1）センサーボックスの取り付け
　2）コントロールボックスの取り付け
　3）レシーバーの取り付けと調整方法
　　①ヘルメットへの取り付け
　　②レシーバーの調整方法
〈7〉 使用方法
　1）コントロールボックスのスイッチに付いて
　2）モードの選択
　3）電源のON/OFFについて
　4）レシーバーの使用方法
　5）警報機能に付いて
　　①レーダー波の受信
　　②カーロケ帯の受信
　　③取締用連絡無線の受信
〈8〉 スピード違反の取締り方法
　1）追走して測定する方法（追尾方式）
　2）距離と時間で算出する方法（光電管式・ループコイル式）
　3）電波を使って算出する方法（レーダー方式）
　　①ステルス型取締り機について
　　②新Hシステムについて
　　③取り締まりレーダー波について
　　④取り締りレーダー波を受信しにくい場合
　　⑤Nシステム検知について
〈9〉 カーロケ帯&取締まり無線
　1）350.1MHz取締無線受信機能について
　2）407.7MHZカーロケ帯について
〈10〉 レーダー波に付いて
〈11〉 補修パーツのご紹介
〈12〉 保証について

② 仕様

センサーボックス・コントロールボックス

●電源:DC12V
●受信電波帯：Xバンド（10.525GHz）カーロケ帯（407.7MHz）
　取締無線帯（350.1MHz）
●作動温度範囲：−10〜+60℃
●消費電流：ON=15mA　警告時=最大75mA　OFF=1.5mA（オートモード時）
●ヒューズ：1A
●センサーボックスサイズ：幅53×奥行56×高さ22mm
●コントロールボックスサイズ：幅51×奥行64×高さ20mm
●警告方式：3色4個LEDによる光の警告/外部スピーカー及びレシーバーによる音の警告

レシーバー

●電池：CR2032
●消費電流：最大0.8mA
●連続使用時間：約220時間（ATモード未使用時/未警報の場合）
●レシーバーサイズ：φ50×12mm
●使用範囲：コントロールボックスより1m程度

注意：仕様につきましては、改善の為予告なく変更する事がございます。

③ 特長

●電源スイッチはマニュアルモードとオートモードの2つの選択での使用が可能です。

■オートモード：フルオート機能で接続した後の操作は必要ありません。
・配線はバッテリー端子の+−に継ぐだけで、その後の操作は不要です。
・オートパワーコントロール（A・P・C）で、エンジン始動と共に電源が入りエンジン停止で電源が自動的にカットされます。

■マニュアルモード：お客さまに任意でご使用いただく為のモードで、ワンタッチで電源のON−OFFが可能です。
・車両の従来コードへ途中結線をした場合は車両のイグニッションをOFFにした時は常にOFFになりますのでバッテリー上がりを防ぐ事が出来ます。
・バッテリー端子の+−に継いだ場合、コントロールボックスのON/OFFスイッチでワンタッチ操作が可能です。
※この場合常時電源が入る状態になりますので、切り忘れに注意して下さい。

●超小型・セパレートタイプで雨にも強い!「オートバイ専用設計」

・取付が容易な小型センサーボックス。（専用ステー2種付き）
・高輝度LEDで危険を知らせるコントロールボックス.
・電源コードの途中にコネクターが付いており、メンテナンス・装着共に容易です。
・センサーボックス、コントロールボックス共に安心の防雨設計です。

●取締に合わせた分かりやすい「音声警告」!

・電波の種類に合わせて分かりやすい音声の警告を行います。
・音声警告:「レーダー波を受信しました。」「350.1無線を受信しました」
　「近くのカーロケ無線を受信しましたご注意ください。」etc
・オートミュートコントロール（A・M・C）で、感知後10秒間は通常警告を行い、その後自動的に警告の光と音をセーブしますので、自動ドア等の干渉もわずらわしくありません。

●超小型!「ワイヤレスレシーバー」でイヤホーンコード不要!

・専用のワイヤレスレシーバーを採用！ わずらわしいコードからも解放されます。
　（小型レシーバをヘルメット内に装着　コードなしで警告音をキャッチ）
・超小型設計で、ヘルメット内への取り付けも簡単です。

●カーロケーターシステム受信対応!

緊急車両等に搭載され、GPS信号により算出された自車の位置情報を交通センターなどに送信するシステムです。この電波を受信する事でパトカー、覆面パトカーなどが付近を走行している事を知らせます。

●350.1MHz取締無線受信対応!

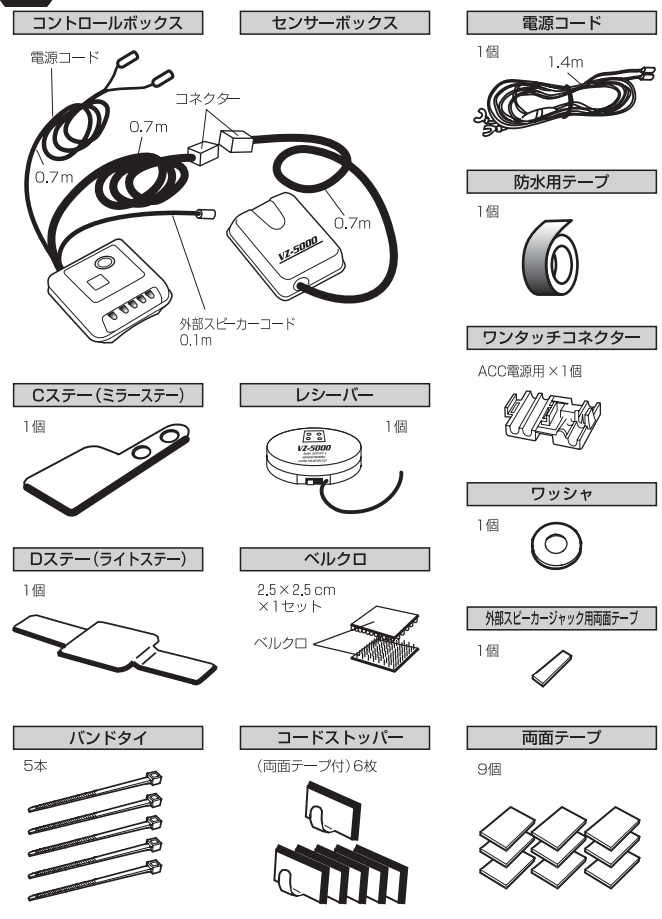
速度取締り現場で、測定係と停止係の間で使用されている無線を受信し、お知らせする事ができます。

●ステルス取締機及び新Hシステムにも反応!

・超高感度タイプで、Xバンドに対応!
・従来のオービスはもちろんの事、ステルス機、新Hシステムにも反応します。
　（注意:ステルス機は電波が発射されている場合にのみ有効です。）

取締方法一覧	オービス（水平偏波）	◎	
	オービス（垂直偏波）	◎	
	新Hシステム	○	
	ステルス	○（発射電波にのみ対応）	
	移動式（水平偏波）	◎	
	移動式（垂直偏波）	◎	
	移動式（円偏波）	◎	
	パトカーによる追跡レーダー計測	○	
	パトカーや白バイによる追尾計測	×	電波を使用していないため検出不可
	光電管を使用する方法	×	
	ループコイル式	×	
	LHシステム	×	

④ 部品構成と各部の名称



5 配線方法

本製品は車両やご使用方法に合わせて2種類の配線方法が選べます。

●オートモード（電源インジケーターランプ：緑）

A·P·C（オートパワーコントロール）の働きで、エンジンの発電機から発生するパルスを検知して自動的に電源のON, OFFをコントロールします。バッテリーに直接配線するだけで機能するので、複雑な取付作業を必要としません。

- ●基本の配線方法。
- ●専門知識不要で手軽に接続出来ます。

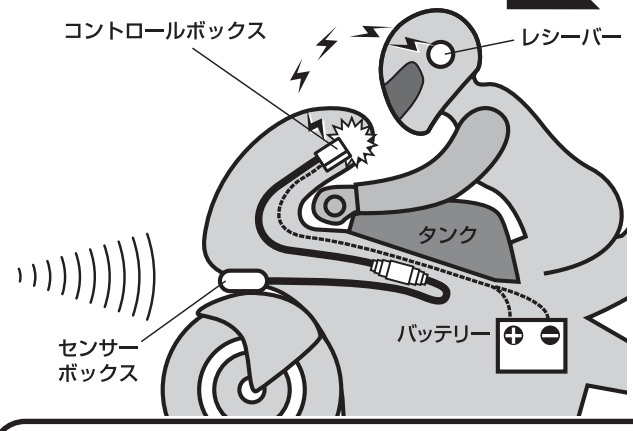
●マニュアルモード（電源インジケーターランプ：赤）

電源スイッチのON,OFFで機能します。A·P·C（オートパワーコントロール）は機能しません。バイクのイグニッションのON/OFFに連動する配線に接続すればイグニッションOFF時には常に電源がOFFになりますのでバッテリー上がりを防ぐ事が出来ます。

- ●バッテリーレス車の場合。
- ●任意でON/OFFしたい。
- ●バッテリーまで電源コードが届かない。

⚠ 注 意
マニュアルモードでバッテリー直接配線も可能ですが、バッテリー上がり等のトラブルの原因となりますのでお勧めしません

A ●バッテリーへの直接配線



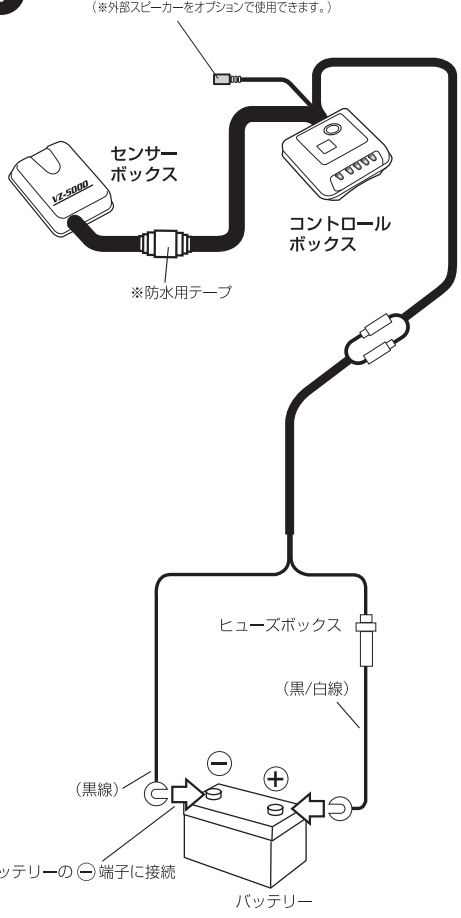
●直接バッテリーの⊕⊖端子に接続します。

電源コードの端子をバッテリーの端子に接続します。
余分な線は付属のバンドタイを使って、フレーム等に固定してください。

⚠ 注 意

●バッテリー直接配線した状態ではマニュアルモードにはしないでください。
A·P·C機能が働かず電源が自動的にOFFとならない為、バッテリー上がり等のトラブルの原因となります。

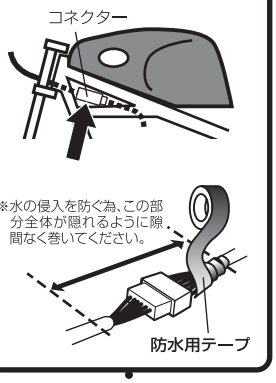
配線例



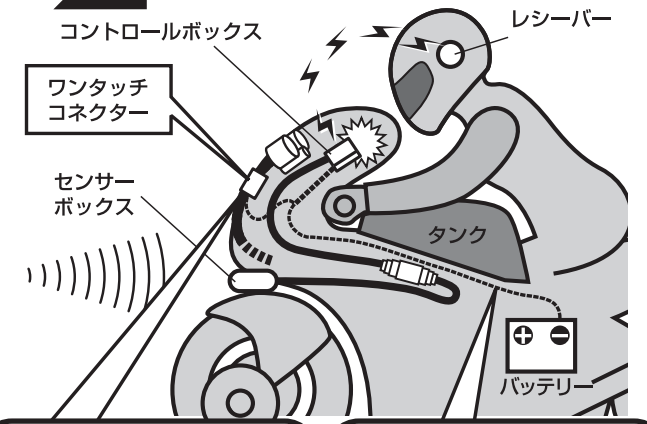
⚠ 注 意

※配線取回し上の注意

コネクター部は雨や洗車の水等がかかるのを防ぐ為、必ず付属の防水用テープを巻き、雨等がかかりにくいガソリンタンクの下側等に設置してください。



B ●車両側の配線への途中結線

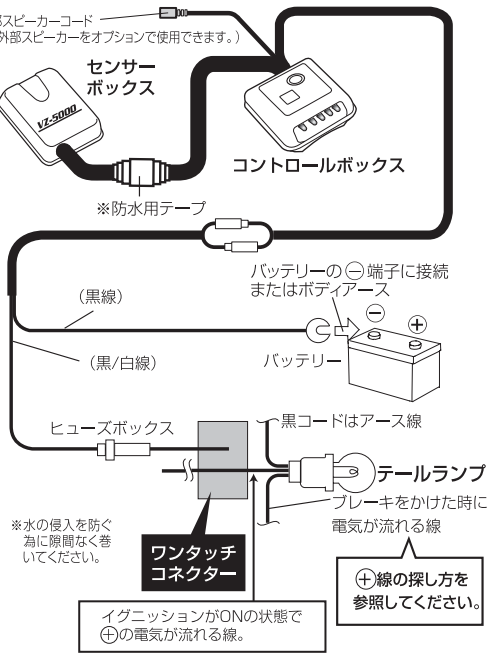


●⊕コードはイグニッションをONにした時に⊕の電気が流れます。

●⊖コードはバッテリーの⊖端子に接続、またはボディーアースしてください。

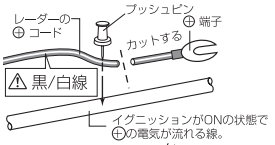
①車両の配線からイグニッションがONの時に⊕の電気が流れている配線を探してください。
※⊕線が分からない時は、プッシュピンなどを刺して導通させて確認して下さい。
②コントロールボックスから出ている電源コードの⊕ ライン端子を切り落とし、上記配線に付属のワンタッチコネクターにて確実に接続して下さい。

配線例



⊕線の探し方

⊖端子をボディーアースへ接続しておき、⊕コードをプッシュピンなどで一時的に刺します。イグニッションをONにし、電源インジケーターランプ（緑/赤色）が点灯すれば通電しています。プッシュピンを外し、ワンタッチコネクターにて確実に接続して下さい。不明の場合は無理せず、車両販売店などへご相談下さい。

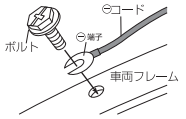


ワンタッチコネクターの使い方

接続するコードを並べてコネクターで挟み込みます。

ボディーアースの例

車両フレームにあるボルトを利用して共締めしてください。
※フレームが塗装されている場合は塗装を紙ヤスリ等で落としてください。

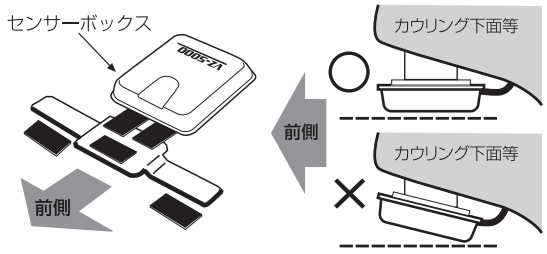


6 取付方法

1 センサーボックスの取り付け

⚠注意　取り付け上の注意

1.テープは、接着後24時間で接着力が最大となりますので、それまで荷重をかけないようにしてください。
2.センサーボックスはいすれの取り付けの場合も水平または背面に取り付け、前方に障害物がないようにしてください。（プラスチック製のカウル等、電波を通すものは○、金属物は×）
3.取り付けの際は、必ずセンサー部が進行方向に水平（背面含む）となるように注意してください。
4.センサーボックスから出ている電源コードは、ハンドルを切った時、引っ張られないように取回しをする事。断線や浸水の原因となります。

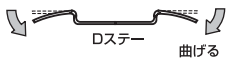


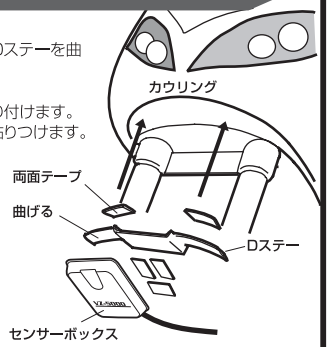
主な取り付け例と取り付け方法

付属のステーを利用して、色々な所に取り付けられます。また、ステーを利用しないでセンサーボックスを両面テープで直接車体に取り付けることもできます。

カウリング部への取り付け

1.ステーに付いているコーティングフィルムをはがします。
2.カウリングのライト下側の凹丸みに合わせて、Dステーを曲げます。
3.ステーに両面テープを貼ります。
4.センサーボックスをステーに両面テープで取り付けます。
5.取り付け箇所の汚れや油分を完全に拭きとり、貼りつけます。

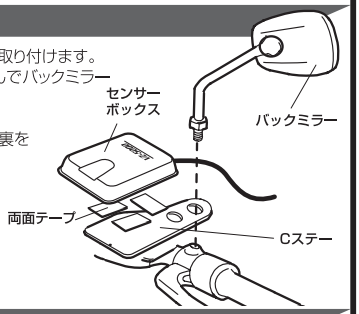




⚠警告
●ハンドルの取り回しに支障がない事。
●サスペンションが沈み込んだ時にボディやフェンダー等に干渉しない事。

ミラー部への取り付け

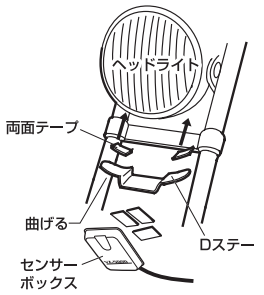
1.Cステーにセンサーボックスを両面テープで取り付けます。
2.バックミラーをはずし、Cステーをはさみ込んでバックミラーを取り付けます。
※左右どちらのミラーでも取り付け出来ます。
※マスターシリンダー等に当たる場合は表と裏を逆にしてご使用ください。



⚠注意
ハンドルの振動が激しいものには適しません。

ライトボディーへの取り付け

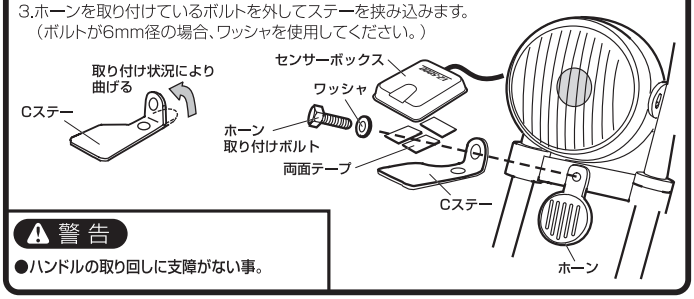
（センサーボックスが裏側になりますが、性能に影響はありません。）
1.ステーに付いているコーティングフィルムをはがします。
2.ヘッドライトのリムの丸みに合わせて、Dステーを曲げます。
3.ステーに両面テープを貼り付けます。
4.センサーボックスとDステーを両面テープで取り付けます。
5.取り付け箇所の汚れや油分を完全に拭きとり、貼りつけます。



⚠警告
●ハンドルの取り回しに支障がない事。
●サスペンションが沈み込んだ時にボディやフェンダー等に干渉しない事。

車体ボルト利用の取り付け（ホーンボルト利用の場合）

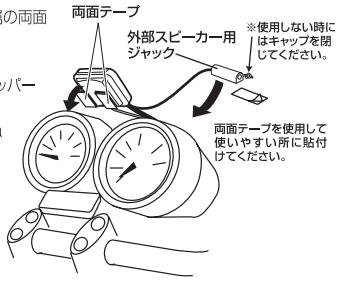
1.Cステーを取り付け位置に合わせ曲げておきます。
2.センサーボックスをステー両面テープで取り付けます。
3.ホーンを取り付けているボルトを外してステーを挟み込みます。
（ボルトが6mm径の場合、ワッシャを使用してください。）



⚠警告
●ハンドルの取り回しに支障がない事。

2 コントロールボックスの取り付け

1.ライディングポジションをとり、見やすい角度に付属の両面テープでメーターケースなどに貼り付けます。
2.センサーボックスと接続します。
3.2本のコードを束ねるときは、付属のコードストッパーをお使いください。
※平面に取り付けるときは何枚か両面テープを重ね貼りしてください。

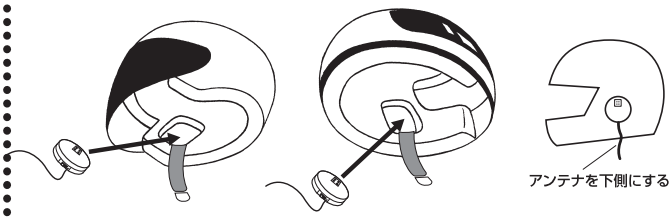


⚠注意
1.張り付け箇所の汚れや油分はよく拭きとってください。
2.ワーニングランプのL.E.D.は、取り付け角度によって見えにくくなる事がありますので、角度をよく確認してから取り付けてください。

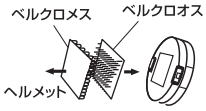
OPTION
●外部スピーカーを装着する事もできます。

3 レシーバーの取り付け・調整方法

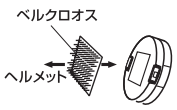
1）ヘルメットへの取り付け



1.取り付けるヘルメットの耳抜き穴の部分に上手くレシーバーが収まるかを確認します。
※アンテナは丸めたり、押し込んだりしないようにしてください。
2.取付面の状況に合わせてベルクロテープを利用して貼付けます。
3.ヘルメットをかぶって支障がない事を確認します。当る場合は位置を調整してください。



ヘルメット側がハードな場合

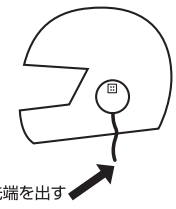


ヘルメット側が生地の場合

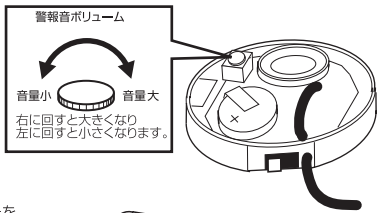
参考　音が聞き取りにくい時、耳とスピーカーの空間を少なくする事により音が聞き取り易くなる場合があります。

2）レシーバーの調整方法

●受信感度について
センサー本体の取り付け場所やレシーバーの取り付け方によって、受信感度が安定しない場合があります。その際はヘルメットからレシーバーのアンテナの先端を少し外に出すようにしてください。



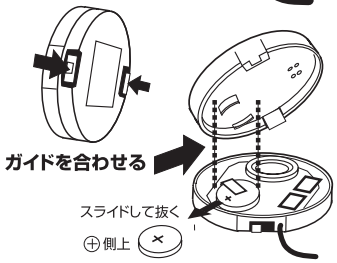
●音量の調整
レシーバーの音量は内部のボリュームで調整します。



●電池の交換
電池交換の目安
レシーバーがONの状態で本体側のスイッチをONにした場合に"ピッ"と音がしなくなった時。

1.両側のつまみを手でつまんで、上ケースを取り出します。
2.電池のみをスライドして取り出し、新しい電池と交換します。

（⊕と⊖を間違えないようにして下さい。）



交換電池：CR2032

7 使用方法

⚠注意	1.センサーボックスとワーニングランプは防雨型となっておりますが、洗車時等、直接水をかけることはお避けください。 2.レーダー波と同一周波数（10.525GHz）のものにも反応しますので、あらかじめご了承ください。
⚠警告	本体をバッテリーにつないだままのバッテリー充電や押し掛けは、電子部品の破損につながりますのでお止めください。

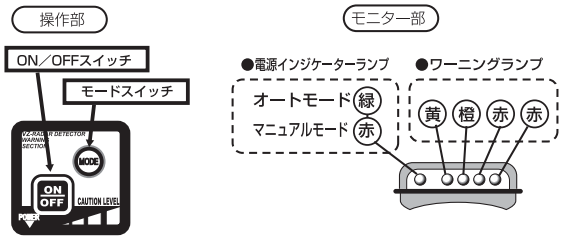
1 コントロールボックスのスイッチについて

モードボタン

「オートモード」と「マニュアルモード」の何れかを選択する時に使用します。

ON／OFFボタン

電源のON/OFFを行います。VZ-5000の機能をすべて停止させたい時に使用します。



2 モードの選択

A 「オートモード」で使用

〔 バッテリー直接配線をしてください。〕

❶モードスイッチで**電源インジケーターランプを**(緑)に点灯させてください。
❷A･P･Cの機能で**エンジン始動と共に自動的に電源がON**となり、**エンジン停止と共に自動的に電源がOFF**となります。
※エンジン始動時に通電確認の為のワーニング機能が2～3秒作動します。
（光と音で作動確認ができます）

参 考

●走行時に電源を切りたい時はON/OFFスイッチで一時的に電源を切る事ができます。
●メインキー（イグニッション）がONの状態でもエンジンが停止していれば、電源は自動的にOFFとなります。

A･P･C機能を含めた全ての電源をOFFにしたい時

●エンジン停止状態でVZ5000の電源がOFFの状態で**" ON/OFF" スイッチを一度押すと「A･P･C機能を含めた全ての電源がOFF」**となり、消費電流を抑える事が出来ます。
●" ON/OFF" スイッチをもう一度押すと**「A･P･C機能を含めた全ての電源がON」**となります。
※この操作はインジケーターランプで確認できません。再スタート時には必ずインジケーターランプで起動を確認してください。

⚠注意

●バッテリー直接配線した状態ではマニュアルモードにはしないでください。
A･P･C機能が働かず電源が自動的にOFFとならない為、バッテリー上がり等のトラブルの原因となります。

B 「マニュアルモード」で使用

〔 車両側配線への途中結線をしてください。〕

❶キーを入れバイクのイグニッションをONにしてください。
❷使用する時には、電源スイッチを押してVZ5000の電源をONにしてください。
※通電確認の為のワーニング機能が2～3秒作動します。（光と音で作動確認ができます）
❸オートモードの時にはモードスイッチで**電源インジケーターランプを**(赤)に点灯させてください。
これでスタンバイOKです。
※バイクのイグニッションをOFFにすると連動して電源はOFFになります。

⚠注意

●A･P･Cはオートモード使用時のみ機能します。
●イグニッションをOFFにして、再度イグニッションをONにした時には電源スイッチを必ずONにして使用してください。（自動的に電源はONになりません）
●バッテリー直接配線した状態ではマニュアルモードにはしないでください。
自動的に電源がOFFとならない為にバッテリー上がり等のトラブルの原因となります。

3 電源のON/OFFについて

オートモードはエンジン始動時、マニュアルモードは電源をONにした時、それぞれ**通電確認の為のワーニング機能が2～3秒作動します。（光と音で作動確認ができます）**
スタート時にワーニング機能が作動しない場合はVZ5000は機能していません。電源がOFFとなっているか、正しく配線されていない恐れがありますので、確認をしてください。

4 レシーバーの使用方法

任意でON/OFFする場合

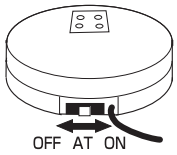
1.スイッチをONにします。
（ピッと音がします）

使用しない時は電池の消耗を抑える為にスイッチをOFFにしてください。

オートモードで使用する場合

1.スイッチをATにします。
（ピッと音がします）
2.自動でON/OFFの切替を行います。

レシーバーの微振動を検知してON状態となり、約30分程度静止状態が続くと自動的にOFFとなる省エネモードです。



●省エネ機能について

振動が伝わりにくい時、" ピピピピ" と音がして電源が自動的にOFFになります。継続して使用する場合は再度振動を与え電源をONにしてください。ONになった時は" ピピッ" 音がして確認できます。

5 警報機能について

Wアラーム方式

音声と光（ワーニングランプ）で分かりやすく警告します。

常時サーチシステム

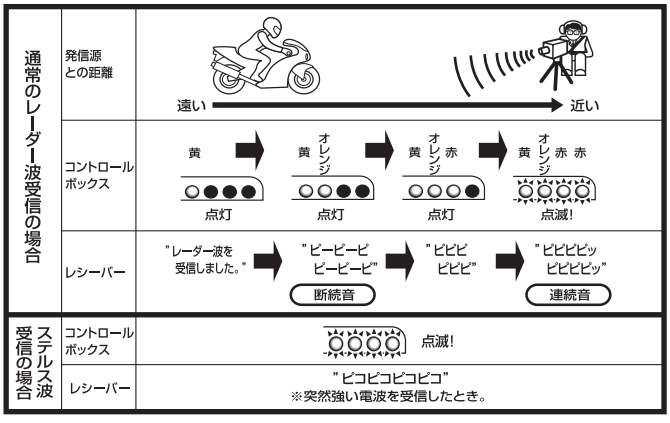
本機は、各電波（取締りレーダー波、カーロケ帯、取締り無線）を常時モニタリングし、強い警報から優先して受信します。

接近テンポアップシステム

取締りレーダー波を受信した時は、取締りレーダー波発信源への接近（電波の強弱）に合わせて変化します。

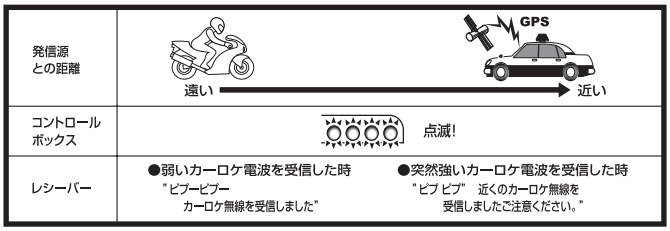
① レーダー波の受信

●レーダー式取締機の発する電波を受信したとき下記の様に警報します。
●Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に警告します。



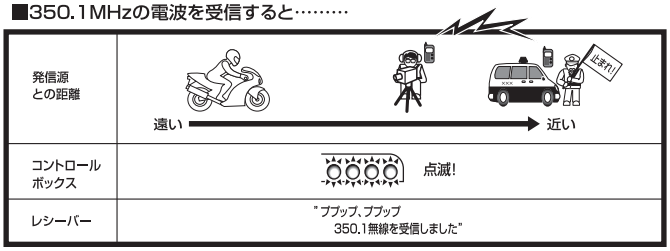
② カーロケ帯の受信

■407.7MHz帯の電波を受信すると……



③ 取締用連絡無線の受信

■350.1MHzの電波を受信すると……



8 スピード違反の取締り方法

1）追走して測定する方法（追尾方式）

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

※またカーロケーターシステム搭載車の場合は、カーロケ帯受信機能により、警報することが出来ます。

2）距離と時間で算出する方法（光電管式、ループコイル式／LHシステム）

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

※この方式は取締りレーダー波を発射しておりませんので、本機では探知することが出来ません。

3）電波を使って算出する方法（レーダー方式）

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化（ドップラー効果）で速度を算出します。

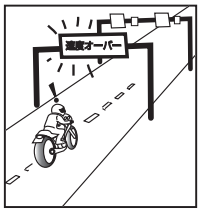
※現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流になると思われます。

①ステルス型取締り機について

ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知（受信）されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短期間強い電波を発射して、速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

②新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機（オービス）の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波を間欠発射している為、探知（受信）しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

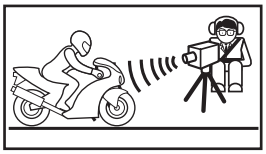


③取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

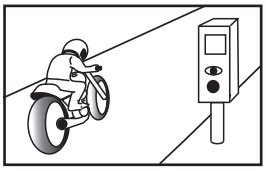
★定置式

取締り警察官が測定装置を道路際に設置して行います。取締りレーダー波は、直進性が強いため、発射角度が浅いほど、感知しやすくなります。



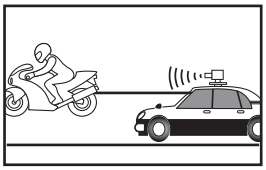
★自動速度取締り機（オービス）

速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。



★移動式

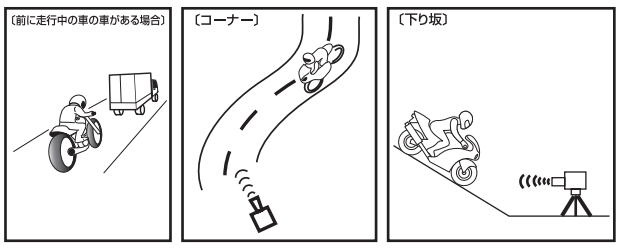
測定器をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。



④取締りレーダー波を受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、電波を受信しにくいことがあります。

- 前を走行している車（特に大型車）がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなる場合があります。スピードの出やすい下り坂では、特にご注意ください。
- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りが出来るステルス型のスピード測定装置があります。
- 電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測器などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。いつも鳴っているから大丈夫と安心せずに、注意して運転をしてください。



⑤Nシステム検知について

「自動車ナンバー自動読みとり装置」通称「Nシステム」は、新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、このNシステムが発している特殊な信号を検知しません。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようですが心配はいりません。

9 カーロケ帯&取締り無線

1）350.1MHz取締り無線受信機能について

スピード違反の取締りや、シートベルト着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線で連絡が行われることがあります。
350.1MHz取締り無線受信機能は、このような場面で威力を発揮します。尚、本製品は無線電波を受信しますが交信内容を聞く事はできません。

⚠注意

取締り現場での連絡方法には350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線の他に、通話内容をコード化したデジタル方式や有線方式もあり、受信自体が出来ない場合もあります。

2）407.7MHzカーロケ帯受信機能について

カーロケーターシステムとは、「無線自動車動態表示システム」のことで、緊急車両等に搭載されたGPS機能により、自車位置を測定。その位置情報を専用の無線帯によって本部に連絡し、通信司令本部が移動局（パトカー等）の現在位置をリアルタイムで地図画面に表示し、把握するシステムです。カーロケーターシステムを搭載した移動局は、GPSによる緯度・経度情報をデジタル化し、407.7MHz帯の周波数で通信する場合が多いので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことが予測されます。このように、事前に察知することにより、緊急車両の進行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

⚠注意

- **一部地域または、一部緊急車両ではカーロケーターシステムが装備されていないため、本製品では受信出来ない事があります。**
- **カーロケーターシステムは間欠で送信される為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。**
- **緊急車両は走行状態（緊急走行、通常走行、駐停車）によって、電波の送信時間が変化する為、実際の緊急車両の接近と受信タイミングにズレが生じる事があります。**
- **送信電波の中継局、受信本部近辺では緊急車両の接近に関わらず受信する事があります。**
- **本製品が受信するカーロケーターシステムは、移動局（パトカー等）を中心に導入されており白バイ、救急車、消防自動車等には現在導入されておりませんが、将来的には導入される可能性があります。**

10 レーダー波について

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測器などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。いつも鳴っているから大丈夫と安心せずに、注意して運転をしてください。

反応する電波例

- ●マイクロ波のドップラー式自動ドア（コンビニのドアなど）
- ●マイクロ波のドップラー式車両通過計測機
- ●NTTのマイクロウェーブ通信回路の一部
- ●気象用レーダーの一部
- ●航空レーダーの一部
- ●湾岸レーダーの一部
- ●大出力の違法CB無線

⚠日頃から安全運転を心がけてください。

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もって警告する受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ループコイル式などのスピード測定装置には反応しません。また電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測器などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。いつも鳴っているから大丈夫と安心せずに、注意して運転をしてください。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがございますのでご了承ください。

11 補修パーツの紹介

	部品番号	名　称	価　格	数　量
1	MP-145	Cステー	￥ 189（本体価格¥180）	1ヶ
2	MP-146	Dステー	￥ 189（本体価格¥180）	1ヶ
3	MP-165	外部スピーカー	¥2,940（本体価格¥2,800）	1本
4	MP-166	取付付属品セット	￥ 525（本体価格¥500）	1セット*
5	MP-167	レシーバー	¥8,925（本体価格¥8,500）	1ヶ

＊両面テープ×9、コードストッパー×6、バンドタイ×5

●お求めはお近くのモトフィズ取り扱い店にお申し出ください。
また、通信販売でもお求めになれます。

12 保証について（化粧箱横面表示）

保証書、又はレシートは保証を受ける際に必要となりますので、必ずお手元に保管されるようにお願い申し上げます。（保証書を使用する場合は切りはなしてご使用下さい。）

●本品に対するご連絡・ご相談先

TANAX タナックス株式会社
TEL.04-7150-2450（月～金　9：00～18：00）
〒270-0151　千葉県流山市後平井107-3
http//www.tanax.co.jp